

服しました。今後も是非良い写真、特に野鳥のを期待しております。

「ルリビタキと紅梅」の 美しさに感動

高崎禎夫 広幼48

3月号の表紙の写真は、池上均氏の撮影による、「目の覚めるような美しい」「紅梅の一枝に留まる幸せの青い鳥ルリビタキ」でした。

よくも、まあ、こんな美しい写真が撮れたものです。

普通、梅にウグイスといいますが、この「ルリビタキ」もいいですね。

「紅梅」も、格別に、美しい、と思えました。

広辞苑によると、「ルリ色」は、「紫色を帯びた紺色」。「ヒタキ」も（翁偏に鳥または火焼）は、スズメ目の一群の鳥の総称。火打石を打つ音に似た「ひっひっ」という地鳴きをする鳥の意、でした。

（編集…ジョウビタキとルリビタキは、どちらも雀より少し大きな鳥です。ジョウビタキは秋口からゴールデンウィークにかけて日本に滞在する渡り鳥、ルリビタキは本格的な冬の時期から桜の咲く前頃までに平野部にやってくる漂い鳥です）



『偕行』3月号の 表紙写真を見て

奈良保男 広幼47

『偕行』3月号で池上氏が撮られたルリビタキの表紙写真を拝見し、筆を執りました。私は30代の頃、日本野鳥の会会員でした。今でも野鳥愛好家を自認しておりますが、今住の相模原では野鳥を見るのが少なくなり淋しい思いをしています。

何年か前にはジョウビタキを見かけたこともありましたが、バードウォッチングも無縁となり、池上氏が羨ましく思います。池上氏は偕行フォトクラブのメンバーとのことですが、シャッターチャンスに恵まれたとはいえ、構図の素晴らしさに感